

2019年度(令和元年度)学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番 80	福山市立道上小学校
最終更新日	2019年(平成31年)4月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○校区で学び合いのスタイルを共有した取組が進められている。 ●児童生徒の様子を、積極的に地域に発信し、自己肯定感、自己有用感をさらに高めてほしい。 ●教員が具体的な取組を組織的に行い、めざす子ども像を育成して欲しい。	児童生徒の現状 ○学習する中で、自分の考えや思いを出しあい、活かせるようになってきた。 ●学校での学びが、日常生活で生きた力となって活用されていない。 ●場や時、相手を意識した「かかわりスキル」が低い。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)  中学校区として統一した取組等	コミュニケーション 人としての思いやり  あたりまえのことを、ひたむきにやりきる子  ○ 児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようなる。 ○ 児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○ 校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。
---	--	---	---

III 自校

ミッション  社会に貢献できる人づくり
学校教育目標  豊かな心を持ち 共に高まり合う 子どもの育成
現状  <児童> ・習得した知識、技能を活用する力が十分ではない。 ・自己肯定感が低い児童が固定化している傾向にある。  <授業> ・課題意識をもち、理解を深めたり、考えを広げたりする授業づくりが必要である。 ・児童の学習状況を把握し、個に応じた授業実践を行い、学力向上につなげる授業づくりが必要である。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	① 自己コントロール ② コミュニケーション ③ 思いやり・感謝			
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
めざす子ども像	①	感情や行動を律し、ルールやマナーを守ることができる。  時と場に応じた適切な言動を選択し、成長のために進んで学ぶことができる。	何事においても、目標設定ができ、自己の可能性を信じて主体的に挑戦することができる。	自己の言動に対する振り返りができ、適切に改善できる。
	②	他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。	他者の意見の相違を受け止め尊重することができ、協力・協同して参画できる。	意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。
	③	自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。	多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じる事ができる。	他者や社会(集団)に対して、自分ができることを考え貢献できる。
研究	教科等	全教科、道徳		
	主題・内容等	主体的に学ぶ子どもの育成 ～「学び合い」のある授業をめざして～		
めざす授業の姿	◎主体的な課題設定の場がある。 ◎児童が自発的に質問をしたり、考えを確かめたり、話し合ったりして考えを深めたりする場がある。 ◎児童自ら学習の終結や持続を判断し、友達の学びに共感できる場がある。			

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70以上 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70以上 評価	達成 評価	総合 評価
2	学力向上に向けた「子ども主体の学び」の授業を実践する。	★	継続	◎算数科を中心として、児童の「学び」を継続させる授業づくりを進める。	○研究授業を通して、児童の「学び」の姿のイメージを共有化する。 ○児童個々の「学び」の状況に応じた取組を行う。	◇自主公開も含め、研究授業公開を全職員が行っている。 ◇学力課題を抱えている児童に対する手立てを持ち、取り組んでいる。 ◇各種学力調査と単元末テストにおいて、国・県の平均を上回る。	○今現在、授業公開を行っている職員は、全体の78%で計画通り取り組むことができている。 ○全国学テの結果は、国語68%算数65%で、国語は県平均を2%上回り、算数は3%下回った。	3	3	・「子ども主体の学び」を進めるために、授業形態や授業の進め方、子どもの思考を深めるための教師の声かけなど、焦点を絞った研修の実施 ・授業での、知識理解を確かにした、技能を高める時間の確保 ・チャレンジタイムを活用した基礎学力の習熟				
3	人と人とのかわりを重視した取組を進める。	★	継続	◎児童の自己肯定感を高める。	○学校行事及び学級活動、児童会活動等において、異年齢集団の活動等、児童自らが発想した取組を行う。	◇共に活動した友達との間で、肯定的相互評価が全員できている。 ◇「自分にはよいところがある。」と考える児童の割合を85%以上にする。	○指標1 78.3% 指標2 84.8% 児童発の取組が着実に生まれている。 ●生徒指導重点5項目の取組の徹底、充実・通貫	3	3	・異年齢集団による活動の工夫 ・児童発の活動の創出の継続				
3	自己の健康と体力を高めるための取組を進める。		継続	◎体育授業の充実を図り、児童の健康・体力状況に応じた取組を行う。 ◎自己記録の更新やチームワークを意識できる活動に取り組む。	○児童の全体的な傾向を把握し、セット運動等、統一した取組を行う。また、運動の習慣化のために、家庭学習との連動を図る。 ○集団競技、集団遊びに取り組む。	◇自己課題に取り組んでいる児童を100%にする。 ◇新体力テスト結果において、県平均を上回る種目を7/12以上にする。 ◇チーム内で、肯定的相互評価が全員できている。	○自己課題に取り組んでいる児童 100% ○行事の振り返り等の時間で、肯定的相互評価の取組を行っている。 ●新体力テスト達成率60% (目標80%)	3	2	・家庭学習での体力づくりの取組の継続 ・授業時間や休憩時間での体力づくりの取組  (外遊びデーや50m走のタイム測定キャンペーンなど)				

3	信頼される学校づくりのために組織的に取り組む。	★	継続	◎情報発信を積極的に行う。	○機をとらえ、分掌・担当等の主体的な動きを生かす。	◇週刊学校便りの発行、HPの更新など、計画的に進める。	○学校アンケート肯定的評価93% ・定期的に発行ができています。  ・メール配信による積極的な情報発信を行うことができています。	3	3	・学校便りの定期的な発行  ・HPのトピックスのタイムリーな更新  ・分掌・担当等による校内掲示物の更新
				◎業務改善に取り組む。	○具体的な方策を宣言して実行する。	◇定時退校日を完全実施し、勤務時間外在校時間について自己管理している。	○時間外在校時間平均54時間18分(4月) ↓ 40時間47分(9月) ・定時退校日を確実に行うことができた。  ・退校時刻を職員が意識し、元気に職務を遂行することができた。	4	4	・退校時間の徹底  ・定時退校の徹底  ・セルフチェックの継続

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。